

●令和3年度「税に関する作文」西宮市長賞受賞作文

【題名】「誰かを想う税」

【学校名・学年】西宮市立西宮東高等学校・1年

【氏名】山口 侑己奈

令和元年10月、消費税が8パーセントから10パーセントになりました。その時家族は、「値上げされるみたいで嫌だね。」

と言っていました。私も買い物をしているとき、税込価格を見て、何となく損をしているような気分になっていました。しかし、そんな私の考えが変わったきっかけがあります。それは高校入学時に自分たちで教科書を購入したことです。今まで当たり前のように無償で受け取っていた教科書。それが税金によって支えられていることに改めて気づき、税についてもっと知りたいと思いました。

調べてみると、税金は医療費や道路などの整備、ごみ収集など、私たちの生活にはなくてはならないものに使われていることが分かりました。ほかにも被災地の復旧や、世界の貧困や飢餓で苦しんでいる人への支援として使われているそうです。私はこのことを知って、自分が払った消費税が、少しではあるものの周りの人たちや、被災地で頑張っている方たちの力になれているような気がして、少し嬉しいと感じました。

世の中には昔の私と同じように、消費税を払うことに少し不満があったり、義務だからと仕方なく払ったりしている人が多くいると思います。でも、税の使い道を見てみてください。きっと自分の想像以上にいろいろなところで、人の役に立っていると思います。私は税が、自分の大切な人や、どこかで苦しんでいる人のことを想って払われる、優しく温かいものになってほしいです。今、世界中で大流行している新型コロナウイルス。この作文を書いている外は、どしゃ降りの雨です。感染症に自然災害。聞いているだけで気分が落ち込んでしまいます。でも、ふとニュースでこの状況化にいる人を勇気づけよう、笑顔にしようとしてくれる人たちを見ると、心が温まり、自分も何かしたいと思うようになります。こんなふうに税も、誰かのことを考える優しさの連鎖のようになってほしいと思っています。そうしていつの日か、世界中の人が安心して、笑顔で日常を送れるようになれば、私はとても嬉しいです。

私はまだ15才で、社会に貢献できるような力なんて全然ありません。でも自立して、自分で税金を払うようになったときは、大切な人のことを想って貢献していきたいです。